

22大学・機関「研究力高い」

文科省、最大年4億円助成

文科省は6日、科学分野で重点的に支援する対象として、世界的な成果が見込める22の大学や機関を選んだと発表した。10の指標で選び、今年度から毎年2億〜4億円を10年間支給する。東京、京都、東北、名古屋の4大学が最高評価の4億円の助成を受ける。研究水準の高い大学や機関を強化することで、国際的な地位が低下している日本の研究競争力の向上につなげる。

方で、日本の国際的な地位は低下している。文科

省の集計によると、2000年時点の論文数は米国に次いで2位、引用回数5位、7位に順位を下げた。文の数は4位だった。しかし10年ではそれぞれ

助成対象の大学・機関	
4 億円	東大、京大、東北大、名大
3 億円	筑波大、東京医科歯科大、東京工業大、電気通信大、大阪大、広島大、九州大、奈良先端科学技術大学院大、早稲田大、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構
2 億円	北海道大、豊橋技術科学大、神戸大、岡山大、熊本大、慶応大

価値があると認められた研究が対象となる国の研究者1人あたりの獲得額、他の研究者に引用される回数が上位10%に入らされた数、同補助金の研究の影響力の高い論文の割合、成果の民間企業への移転など10の指標で評価した。評価によって年間の助成額を4億、3億、2億円と差を付けた。5年後の中間評価によって入れ替えも検討する。文科省は今年度の予算で確保した68億円を充てる。各大学は研究戦略や知財管理を担う人材や研究を支援する技術者の雇用、若手研究者の登用などを継続的に進める。学術研究の質と量の双